
破天荒遊戯録

シュウジ・クロス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

破天荒遊戯録

【Nコード】

N0838T

【作者名】

シュウジ・クロス

【あらすじ】

破天荒遊戯のラゼル達がミッドチルダへ……

ちなみに作者はリリカルなのはシリーズの知識ははっきりさっぱりと知りませんそこは若気の至りと流して頂ければこれ、幸いです

第壹幕（前書き）

本当駄文なんですんません

第壱幕

私たちは旅の途中突然出てきた光に巻き込まれ気絶しました

ラゼル「さて、ここはどこかな？それよりこんなところ歩いてたっけ？」

ラゼル「それにアルゼイドもひーたんもないし……って湿っぽいのはやめやめ人間似合わないことすんのは犯罪よ」

???「何を言っているんだお前は」

ラゼル「おわっ、びっくりさせないでよアルゼイド」

アルゼイド「お前の声が聞こえたから着てやったのになんだその態度は」

ラゼル「そんな事よりひーたんは？」

アルゼイド「あいつはいないほうが青少年の教育衛生上にいい」

ラゼル「それもそうね」

???「ちよつと何言ってるの!？」

アルゼイド「チッ、バロツクヒート」

ひーたん「なんで舌打ち！そして何で俺だけ表記がひーたんなの!？」

ラゼル「じゃあゴキブリ野郎のほうがいい？」

ゴキブリ野郎「いや、やめて！、てか本当に表記がゴキブリ野郎になってるし!」

アルゼイド「うるさいぞお前等……客だ」

ラゼル「うわ、何あれ」

そこには空中に浮いている金属質の物体が此方を向いている
それにラゼルが触ろうとするとそれについているレンズが光った

ズドン！

アルゼイド「何をやっているんだ……」

ラゼル「危ないじゃあない！アルゼイド！」

ひーたん「アル坊、ラゼルちゃん漫才してる暇ありませんよ」

いつのまにか囲まれているラゼル一向

ラゼル・アルゼイド「バロックヒートに諫められた……」

ひーたん「何！そんな反応とらなくてもいいじゃない」

ラゼル「だってひーたんの方がいつもふざけてるじゃん」

ひーたん「ひどい！」

アルゼイド「まあいい早く片づけるぞ」

ラゼル・ひーたん「了解」

そう言うときアルゼイドは拳銃、ラゼルは魔法、ひーたんは右手を剣にしてその世界ではガジェットと呼ばれる機械に向かって行った

第貳幕（前書き）

内容少々わかりづらい所もありますが割り切って見て頂ければこれ幸い

第貳幕

アルゼイド「呆気なかったな」

ラゼル「全くね」

ひーたん「それにしても此処は何処なんだろうーね？」

???「動かないでください」

アルゼイド「なんなんだ……」

???「時空管理局の者です。此処で何をしていたか話して貰います」

アルゼイド「時空管理局？なんだそれは？」

???「時空管理局を知らない！？もしかして次元漂流者！？」

アルゼイド「一人で納得してないで教えろ。さもなくば此奴が死ぬぞ」

アルゼイドはバロックヒートを捕まえ銃を突きつける

ひーたん「ちょアル坊やめて本当に死んじゃうから」

アルゼイド「大丈夫だお前なら心拍停止しても生きていける……そんな気がする」

???「何をしているんですか！」

ラゼル「あく止めなくて良いわよいつもの事だから」

???「いつもの事って……」

ひーたん「勘違いも甚だしいわ！」

アルゼイド「ちっ」

ひーたん「なんで舌打ち！」

アルゼイド「で、時空管理局とはなんだ」

???「時空管理局は次元漂流者を保護し元の世界に戻す事をしています」

アルゼイド「次元漂流者とは？」

???「次元を超えた人の事達で簡単に言えば物凄い迷子です」

ラゼル「えっじゃあこのままだと野宿に突入！？」

ひーたん「まあッこんな所で！ありえない！」

アルゼイド「……なにが言いたい」

ラゼル「言いたいことなんて……ただなんて言うか迷子よね」

アルゼイド「迷子だな」

ラゼル「地図を持っているのはだれかしら」

アルゼイド「俺だな」

ラゼル「皆様聞きました！？アルゼイドが！！アルゼイド様が迷子ですよーッ！！」

アルゼイド「うるさい！！迷子なのは全員だ！！」

ひーたん「そうそうアル坊のせいで全員迷子ね」

ラゼル「そりゃあ、あたしも確かに方向感覚に難があるわ？」

アルゼイド「多少か？嘔吐きめ」

ラゼル「そしてそれをどれほど蔑まれなじられ続けてきたことが」

ラゼル「窓枠に指を走らせるアルゼイド

ドキドキしながら見つめるあたし

『何よこのホコリは！！』ピシィ（効果音）『痛い！！』

アルゼイド「いつから俺は小姑になった」ひーたん「まあまあ日頃の鬱憤を晴らしたいのもわかるけどこのままだと本当にキャンプよ？アル坊のせいで」

ラゼル「それは大変！！アルゼイドのせいで」

アルゼイド「おまえらな……道を間違えたわけじゃない地図の通りに歩いているのになぜかここにいた……」

ひーたん「だからそれを迷子って言うんデシヨ？」

???「あゝ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0838t/>

破天荒遊戯録

2011年11月14日09時56分発行